

第2回 防府市人権学習市民セミナー

日時：令和6年9月25日（水）

午後2時から午後3時30分まで

会場：防府市創業・交流センター 多目的ホール

【障害者の問題】

演題：その子を知る大切さ
～個性ある子どもを育てるためのヒント～

講師：山口県ADHDを考える会世話人

堀川 貴美子 さん

ウォーターアート®パフォーマー

堀川 玄太 さん

周囲の理解、サポートが大切だということ、また周りが可能性を決めつけ選択肢をせばめないよう、個をしっかりと認めていくことが大切だと感じました。

（参加者アンケートより）

堀川玄太さんによるウォーターアート①

ウォーターアート®パフォーマーの堀川玄太さんにウォーターアートを披露していただきました。BGMが流れている間に、様々な道具を使って水で絵を描き、風神・雷神、織田信長、渋沢栄一などを表現されていました。右下写真の桜の絵には、出会いや別れなど、どの方にも思い出があるだろうと参加者の心に寄り添われたパフォーマンスに大きな拍手が送られていました。



講師 堀川貴美子さんのお話より

1 子どもが障害を抱えていたことについて

まだ『発達障害』という言葉が広まっていない時代の子育てでした。玄太の落ち着きのなさについて、周囲からは「母親の性格に落ち着きがないから子どもがそうなる」「あなたの愛情が足りないからこうなった」など言われてきました。しかし、自分の子どもがADHD（注意欠陥多動性障害）だとわかった時、私の教育が原因ではないとほっとしました。私にとって玄太が障害を抱えているとわかったことは救いだったのかもしれませんが、それから幼稚園、保育園と行く所がなく苦勞しましたが、幼少期は現在の児童発達支援センターに通園しました。



講師 堀川貴美子さんのお話より

2 無意識の思い込みについて

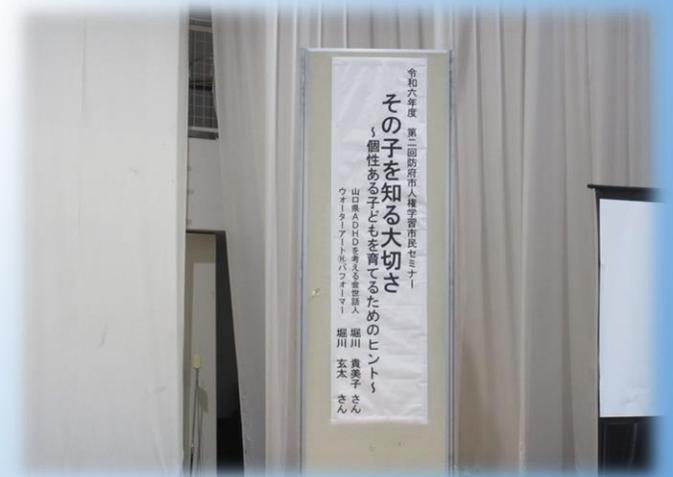
小学校で特別支援学級に入る時のことでした。周りの子から「お前の弟、なかよし学級だろ」と言われなにか心配でした。そこで私は「玄太は特別支援学級でいい？」と聞きました。その一言に、玄太の姉が「玄太は何も悪いことをしていないよ。差別してるのはお母さんじゃん」と言われたことにはっとしました。無意識に線を引いていたのは私だったと気づかされました。



講師 堀川貴美子さんのお話より

3 その子を知る大切さ

登校時、問題が起きないように遅れて学校に行かせていました。それを知らない地域の方に、早く行くよう声をかけられたのですが、その声かけに傷ついていたようです。学校と相談し、何か言われた時は遅れて登校する旨が書かれた校長印の押されたカードを見せるようにしていただきました。そうすると、「がんばってね。」と地域の方の声かけに変化が現れました。その子を知ってもらっただけで周りの対応は変わります。このように、多くの人に支えていただきました。本当に感謝しています。



講師 堀川貴美子さんのお話より

4 成長した我が子へ

子どもが危ないことをしたら叱りますが、『なぜいけないのか』を教えました。頑張ったことに対しては自分の基準で決めず、できたことを褒めました。先生にも褒めていただきました。たくさんの人に助けてもらい、本当に感謝しています。

玄太も成長し、支えてくださった方に感謝を届けたいと、ウォーターアートを頑張っています。最後に、玄太のウォーターアートを観ていただければと思います。本日はありがとうございました。



堀川玄太さんによるウォーターアート②

母の話にあったように、家族と周りの人たちの支えがあって自分は成長しました。母の講演の中でパフォーマンスをすることが多かったのですが、今では独立し、一人で石川県まで行き、イベントの打ち合わせや宿泊先の予約等、イベント参加に向けての準備もしています。最後に描いた絵は母に『もう、自分は大丈夫だよというメッセージ』と『感謝』を表現しています。

これからも多くの人にウォーターアートで感謝を届けたいと思います。イベントがあればいつでも行きますので、これからもよろしくお願いします。



市民セミナー参加者アンケートより

- 飾らない日常生活を素のままに話していただきました。お母さんの温かいまなざしは、私の心をゆさぶりました。あたたかい声かけ、励ましの中でのびのび特技を伸ばし、生き生きと輝いて生きる、子どもたちの姿が目に見えるようでした。すてきなウォーターアートでした。
- 個性に磨きをかけることは、自分らしい生き方を切り拓くことであり、将来をデザインすることにもつながることをよく理解できました。そんなことから障がいは、まさに個性そのものであると感じました。

《感謝の言葉の部分は省略させて頂き、原文どおり掲載しています。》